

様式6 (第15条第1項関係)

平成30年 4月 9日

独立行政法人
日本学術振興会理事長 殿

研究機関の設置者の所在地	〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町	
研究機関の設置者の名称	国立大学法人名古屋大学	
代表者の職名・氏名	総長 松尾 清一 (記名押印)	
代表研究機関名及び機関コード	名古屋大学	13901

平成29年度戦略的国際研究交流推進事業費補助金
実績報告書

戦略的国際研究交流推進事業費補助金取扱要領第15条第1項の規定により、実績報告書を提出します。

整理番号	J2901	補助事業の完了日	平成30年 3月31日	関連研究分野 (分科細目コード)	3101
------	-------	----------	-------------	---------------------	------

補助事業名 (採択年度)	補助金支出額 (別紙のとおり)
室町後期から江戸期の絵写本・版本研究を通じた日本学研究と西欧とのネットワーク構築 (平成29年)	22,939,918円

代表研究機関以外の協力機関

立教大学, 学習院女子大学, 国文学研究資料館, 慶應義塾大学, 金城学院大学, 明星大学, 愛知県立大学, 茨城大学, 千葉大学, お茶の水女子大学, 青山学院大学, 東京大学

海外の連携機関

ハイデルベルク大学東アジア美術史研究センター, ストラスブール大学, フランス社会科学高等研究院, フランス極東学院, パリ・ディドロ大学, INALCO (フランス国立東洋言語文化大学), アルザス・欧州日本学研究所, 東アジア文化研究センター

1. 事業実施主体

フリガナ 担当研究者氏名	所属機関	所属部局	職名	専門分野
主担当研究者 イトウ のぶひろ 伊藤 信博	名古屋大学	人文学研究科	助教	文化史
担当研究者 ちかもと けんすけ 近本 兼介	名古屋大学	人文学研究科	人文学研究科	中世文学
しおむら こう 塩村 耕	名古屋大学	人文学研究科	教授	近世文学・書誌学
ディラン ミギー Dylan Mcgee	名古屋大学	人文学研究科	准教授	書誌学
あきた きみ 秋田 喜美	名古屋大学	人文学研究科	准教授	言語学・擬音語研究
ながさわいつき 永澤 濟	名古屋大学	人文学研究科	講師	日本語語彙研究

あべやすお 阿部泰郎	名古屋大学	人文学研究科	教授	宗教テキスト学・中世文学
こみねかずあき 小峯和明	立教大学	文学部	名誉教授	説話文学
すずきあきら 鈴木彰	立教大学	文学部	教授	中世文学・説話文学・軍記
まえだまさゆき 前田雅之	明星大学	人文学部	教授	中世文学
やまもとようこ 山本陽子	明星大学	人文学部	教授	日本美術史
よしざわはじめ 芳澤元	明星大学	人文学部	助教	中世仏教史
いしかわとおる 石川透	慶應義塾大学	文学部	教授	絵巻・近世文学
ささきたかひろ 佐々木孝浩	慶應義塾大学	斯道文庫	教授	書誌学・和歌
つだまゆみ 津田真弓	慶應義塾大学	経済学部	教授	江戸文学
こばやしけんじ 小林健二	国文学研究資料館	研究部	教授・副館長	中世文学・芸能史
こいだともこ 恋田知子	国文学研究資料館	研究部	助教	絵巻・中世文学
とくだかずお 徳田和夫	学習院女子大学	文学部	教授	御伽草子研究
りゅうさわあや 龍澤彩	金城学院大学	文学部	教授	日本美術史・史学
なかねちえ 中根千絵	愛知県立大学	日本文化学部	教授	説話文学、仏教文学
いとうさとし 伊藤聡	茨城大学	人文学部	教授	中世思想史
しばかよの 柴佳世乃	千葉大学	文学部	教授	仏教文学
つちやまき 土谷真紀	お茶の水女子大学	文教学部	助教	日本美術史・絵巻
あべみか 阿部美香	東京大学	史料編纂所	特任研究員	中世文学
計 24 名				

フリガナ 連絡担当者	所属部局・職名	連絡先（電話番号、e-mailアドレス）
ミズノ リエ 水野 理恵	研究協力部研究支援課 外部資金係・事務職員	052-747-6482 ken-jsps@adm.nagoya-u.ac.jp

※2頁以降は、交付決定を受けた時点の事業計画の項目に合わせて必要に応じて修正すること。

2. 本年度の実績概要

- ①10月～11月にかけて、主担当者、担当研究者と協議を重ね、本年度、次年度に渡る研究計画を構築した。また本事業に必要な研究室、パソコンやデータベース作成に必要な写真家や技術者などを雇用。
- ②ハイデルベルク大学から要請を受けたリンデン美術館蔵「堯舜絵巻」3軸、「子易物語絵巻」2軸、「羅生門絵巻」2軸、「酒吞童子絵巻」4軸の翻刻を開始した。
- ③11月にパリ・チュルヌスキ美術館、フランス国立図書館を調査し（伊藤、石川など）、「奈良絵本・古今著聞集」、「福富草子」の翻刻開始及び名古屋大学中央図書館に「福富草子」を購入し、比較、本文研究を開始した。
- ④1月～3月初めまで、若手研究者畑有紀をストラスブール大学に派遣し、
 - (1)ストラスブール大学日本語学科院生向けに「くずし字」講座を開設（ストラスブール・日仏学会館）。
 - (2)欧州・アルザス日本学研究所蔵の江戸版本の調査を開始した（蔵本は5千冊以上）
 - (3)ストラスブール・版画美術館での版本・浮世絵調査を行った。
 - (4)来年度10月にパリ・極東学院（ギメ美術館協力）で行う「くずし字」講座の準備。
- ⑤2月末～5月末まで、若手研究者末松美咲をストラスブール大に派遣し、
 - (1)ストラスブール大学日本語学科院生向けに「くずし字」講座を行う（ストラスブール・日仏学会館、4月以降は週一回、ハイデルベルク大にも赴く）。
- ⑥ハイデルベルク大学におけるシンポジウム「聖なるマテリアリティ」に伊藤、近本などを派遣し、司会、コメンテーターを務めた。また、この国際集会に同時に参加した石川（慶應大学）等とハイデルベルク民族博物館蔵本を調査し、「源氏絵」の他、「掲鉢図」の影響を受けた非常に珍しい彩色朝鮮版本を調査した。
- ⑦名古屋大学中央図書館2階ビブリオサロンにおいて、2018年2月19日～3月12日まで、特別展「文化創造の図像学」を開催し、絵巻、奈良絵本、江戸版本の展示を行った。なお、この展示会において、目録作りや解説会は全て若手研究者が実施した。また、展示した諸本は伊藤や石川透、高橋亨が所蔵するものである。
- ⑧名古屋大学において、国際研究集会「文化創造の図像学－絵写本・奈良絵本、絵入り版本とその周辺」を開催し、担当研究者や若手研究者が発表を行った（3月9日～11日）。また、この研究集会において、今後二年間の方針がほぼ固まった。また、招聘者であるジョセフ・キブルツ氏による「カラダ：東西の比較論」セミナー（3月16日）も実施。
- ⑨ストラスブール大学（3月21日～23日）における国際研究集会に主担当者や担当研究者（阿部泰郎、阿部美香）が参加し、本事業の今後の成果をアピールするとともに、発表を行った。
- ⑩ストラスブール・版画美術館での型紙・浮世絵調査、ミュールーズ装飾美術館における江戸版本調査、欧州・アルザス日本学研究所江戸版本の調査（3月23日～25日）を伊藤、阿部美香、末松美咲、畑有紀、佐々木孝浩が行った。また、来年度以降に企画しているストラスブール国立図書館での展示会（解説等は日本人若手研究者が記し、翻訳等はフランス人研究者が行う）の企画が決定された。
- ⑪ストラスブール大学の協力で、学部学生・大学院生を中心に3月26日～27日に、「くずし字」および「古本」のセミナー（日仏学会館）をそれぞれ6時間実施（阿部美香、佐々木孝浩、畑有紀、末松美咲）また、佐々木孝浩が「古本」についての講演を行った（ストラスブール大学）。

⑫半年をかけて、比較研究に必要な様々な絵写本、絵入り本の画像を収集した（「王乙姫物語」、「七夕絵巻」など）。

3. 到達目標に対する本年度の達成度及び進捗状況

①ハイデルベルク大学教授メラニー・トレーデ氏のサバチカル取得により、計画の進捗が危ぶまれたが、リンデン美術館蔵本の中で、トレーデ氏が翻刻を希望した全ての絵巻の画像を手に入れ、若手研究者の末松美咲、杉山和也が翻刻を開始している。また、4人の若手による「くずし字」講座開設も、ストラスブール大学の協力により、ストラスブール大では2018年1月から開始され、4月にはハイデルベルク大、10月にはパリ・極東学院で開始されるため、予定より遅れはしたが、今後は順調に推移すると考えている。

②海外から招聘を予定していた期間が少し、短くなったり、メンバーが交代したりしたが、予定通り招聘でき、また、招聘者と若手研究者との交流会（3月11日）も実施できた。

③調査を予定していた各美術館の内、本年度はフランス国立図書館、チェルヌスキ美術館、パリ・装飾美術館、ストラスブールの各美術館、ハイデルベルク民族美術館にとどまったが、大いに成果が挙げられた。

④若手研究者猪瀬千尋によるチェルヌスキ美術館蔵「奈良絵本・古今著聞集」全二十巻の翻刻も進んでいる。

⑤名古屋大学における展示会や国際シンポジウムが若手を中心に実施されたこと、今後の若手の将来にとって重要なこととなる来年度における展示会の企画、学会と結んだ若手の発表会、西欧における国際学会での発表などの企画が決まったこと、若手の中で、畑有紀、猪瀬千尋が名古屋大学において、有給の研究員に決まるなどで、本年度における目標はクリアできたと考える。

⑥本年度中に、来年度におけるブラジルでの国際学会に畑有紀、ミギー・ディランの派遣が決まったこと、7月に、メラニー・トレーデ氏やエステル・ボーエール氏を中心にフランス国立図書館蔵「八幡縁起絵巻」の勉強会が本事業メンバーや若手により開催が決まったこと、チェスター・ビーティ図書館での研究集会の企画、さらにストラスブールでの展示会企画が決まったこと、9月及び10月にストラスブール大での学会開催、パリでの講演等が決まったことで、若手中心の様々な催しができること。

⑦欧州・アルザス日本学研究所が所蔵する江戸版本が西尾市岩瀬文庫所蔵のような版本に近いことが分かり、畑有紀を中心に、今後リスト作りやタグ付けを行い、データベースを作ることが決まったこと（ただし、膨大な量のため、本事業期間には達成が不可能で、新たに、科研等の申請を行うこととなった）。

⑧名古屋大学で開催された国際シンポジウム（3月）と7月にパリで行われる勉強会をまとめて、刊行することが決まったこと。

4. 日本側研究グループ（実施主体）の研究成果発表状況（本年度分）

①学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文又は著書

論文名・著書名 等	
<p>（論文名・著書名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年（西暦）について記入してください。）（以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・査読がある場合、印刷済及び採録決定済のものに限って記載して下さい。査読中・投稿中のものは除きます。 ・さらに数がある場合は、欄を追加して下さい。 ・著者名について、責任著者に「※」印を付してください。また、主担当研究者には<u>二重下線</u>、担当研究者については<u>下線</u>、若手研究者については<u>波線</u>を付してください。 ・海外の連携機関の研究者との国際共著論文等には、番号の前に「◎」印を、また、それ以外の国際共著論文等については番号の前に「○」印を付してください。また、主要連携研究者については<u>斜体・太下線</u>、連携研究者については<u>斜体・破線</u>としてください。 	
1	「掲鉢図と水陸齋図について」, <u>伊藤信博</u> , 『日本文学の展望を拓く』2巻, 笠間書店, 査読無, 215-235頁, 2017年
2	
3	
4	
5	

②学会等における発表

発表題名 等	
<p>（発表題名、発表者名、発表した学会等の名称、開催場所、口頭発表・ポスター発表の別、審査の有無、発表年月（西暦）について記入してください。）（以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者名は参加研究者を含む全員の氏名を、論文等と同一の順番で記載すること。共同発表者がいる場合は、全ての発表者名を記載し、責任発表者名は「※」印を付して下さい。発表者名について主担当研究者には<u>二重下線</u>、担当研究者については<u>下線</u>、若手研究者については<u>波線</u>を付してください。 ・口頭・ポスターの別、発表者決定のための審査の有無を区分して記載して下さい。 ・さらに数がある場合は、欄を追加して下さい。 ・海外の連携機関の研究者との国際共同発表には、番号の前に「◎」印を、また、それ以外の国際共同発表については番号の前に○印を付してください。また、主要連携研究者については<u>斜体・太下線</u>、連携研究者については<u>斜体・破線</u>としてください。 	
1	「奈良絵本・絵巻の諸問題」, <u>石川透</u> , 「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムによる国際会議」, 名古屋大学, 口頭発表, 審査無, 2018年3月
2	「江戸初前期の絵表紙の流行について」, <u>佐々木孝浩</u> , 「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムによる国際会議」, 名古屋大学, 口頭発表, 審査無, 2018年3月
3	「『新曲』挿絵について—奈良絵本製作における版本の使い方」, <u>山本陽子</u> , 「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムによる国際会議」, 名古屋大学, 口頭発表, 審査無, 2018年3月
4	「奈良絵本・絵巻の制作に行う絵屋の役割—『文正草子』を中心として」, <u>デルフイーヌ・ミュラー</u> , 「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムによる国際会議」, 名古屋大学, 口頭発表, 審査無, 2018年3月
5	「開張の十五世紀」, <u>猪瀬千尋</u> , 「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムによる国際会議」, 名古屋大学, 口頭発表, 審査無, 2018年3月

6	「転換期の絵巻―「秀次公縁起」(京都・瑞泉寺蔵)と「関白草紙」(愛知・正法寺蔵)をめぐって」, <u>土屋真紀</u> , 「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムによる国際会議」, 名古屋大学, 口頭発表, 審査無, 2018年3月
7	「ちりめん本に於ける日本昔噺と、その翻訳の諸相―『瘤取』を中心として」, <u>杉山和也</u> , 「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムによる国際会議」, 名古屋大学, 口頭発表, 審査無, 2018年3月
8	「放屁物の黄表紙―福富草子を視野に―」, <u>津田真弓</u> , 「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムによる国際会議」, 名古屋大学, 口頭発表, 審査無, 2018年3月
9	「中世時代の能における間テクスト性と「情念」の美の展開―禅竹の作品における女性像をめぐって」, <u>ブルンヌ・マグリ</u> , 「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムによる国際会議」, 名古屋大学, 口頭発表, 審査無, 2018年3月
10	「高力猿猴庵の『きつひむた枕春乃目覚』における東海道名物の擬人化」, <u>ディラン・ミギー</u> , 「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムによる国際会議」, 名古屋大学, 口頭発表, 審査無, 2018年3月
11	「酒餅論外伝―美濃の守護所の饅頭屋より―」, <u>芳澤元</u> , 「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムによる国際会議」, 名古屋大学, 口頭発表, 審査無, 2018年3月
12	「相性絵序説: 16世紀から18世紀までの男女相性の図像化の変遷を巡って」, <u>マゼイアス・ハイエク</u> , 「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムによる国際会議」, 名古屋大学, 口頭発表, 審査無, 2018年3月
13	「異本是害房絵巻と謡曲善界」, <u>伊藤信博</u> , 「身体とメッセージ」, ストラスブール大学, 口頭発表, 審査無, 2018年3月
14	「道成寺: 説話と芸能の変身―絵ものがたりと能における翻案」, <u>阿部泰郎</u> , 「身体とメッセージ」, ストラスブール大学, 口頭発表, 審査無, 2018年3月
10	「災害の特徴と農作物について―室町時代を中心に」, <u>伊藤信博</u> , 「生命と環境―東アジアの文学と文化」, 清華大学, 口頭発表, 審査無, 2017年11月

5. 若手研究者の派遣実績(計画)

【海外派遣実績(計画)】

年度	平成29年度	平成30年度	平成 年度	合計
派遣人数	2人	4人 (2人)	4人 (4人)	4人

※当該年度は実績、次年度以降は計画している人数を記載

【本年度の海外派遣実績】

派遣者①の氏名・職名: 畑有紀・博士研究員

(当該若手研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)
 派遣者はフランス・ストラスブール大学日本語学科 Evelyne Lesigne-Audoly 准教授を受入研究者とし、日本語学科院生向けに「くずし字」講座を実施、ストラスブール大若手研究者の育成に努める。

(具体的な成果)

「くずし字」講座は、ストラスブールにある江戸版本を基本にし、ストラスブール大学院生が自主的にその版本を読めるようになることが目標であった。この点で、畑有紀は、欧州・アルザス日本学研究所の協力で、アルザス所蔵の多くの江戸版本を発見し、今後の本事業の進展に寄与した。また、こうした版本の紹介を来年度の日本資料専門家欧州協会 (EAJRS) で英語で発表することとなった。

派遣先 (国・地域名、機関名、部局名、受入研究者)	派遣期間			合計
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
フランス・アルザス, ストラスブール大学, 日本語学科, Evelyne Lesigne-Audoly	60 日	120 日	120 日	300 日

派遣者④の氏名・職名：末松美咲

(当該若手研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)
 派遣者は、室町時代の絵巻や御伽草子が研究の対象であり、絵写本、絵入り本にも対象を広げている。ストラスブールにおいて、「くずし字」セミナーを行う他、畑が予定していたハイデルベルク大学での「くずし字」講座を週一回 (4 月以降) 行う。また、ハイデルベルク大学から依頼された翻刻も実施する。

(具体的な成果)

畑を引き継ぎ、アルザス蔵本による「くずし字」講座を院生向けに行うとともに、次年度におけるアルザス蔵本展示会準備、ハイデルベルク大学から依頼された翻刻や 4 月以降のハイデルベルク大学における「くずし字」講座などを行っている。

派遣先 (国・地域名、機関名、部局名、受入研究者)	派遣期間			合計
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
フランス・アルザス, ストラスブール大学, 日本語学科, Evelyne Lesigne-Audoly	33 日	150 日	180 日	363 日

※本年度の派遣者毎に作成すること。

6. 研究者の招へい実績（計画）

【招へい実績（計画）】

年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	合計
招へい人数	4 人	5 人 (2 人)	3 人 (0 人)	11 人

※当該年度は実績、次年度以降は計画している人数を記載

【本年度の招へい実績】

招へい者②の氏名・職名：Magali Bugne・講師

<p>（当該研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動）</p> <p>Magali Bugne 氏は室町文芸、特に能の研究を行っている。ストラスブール大学では彼女以外では中世文学研究者はおらず、メンバーの若手研究者のみならず、担当研究者と国際共同研究をより推進させる</p> <p>（具体的な成果）</p> <p>本年度三月に名古屋大学で実施した国際研究集会に参加、発表を行い、また、若手研究者を集めた交流会でもコメンテーターを務めた。また、慶應大学斯道文庫の高橋悠介氏を紹介し、今後の能研究の国際化を推進することも承諾を取った。</p>				
招へい元（機関名、部局名、国名）及び 日本側受入研究者（機関名）	招へい期間			合計
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
ストラスブール大学，日本語学科，フランス，伊藤信博（名古屋大学）	4 日	0 日	10 日	14 日

招へい者④の氏名・職名：Delphine Mulard・講師

<p>（当該研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動）</p> <p>Delphine Mulard 氏は、Leggeri-Bauer 氏、Christophe Marquet 氏や担当研究者の石川透氏に指導を受けた研究者で、「奈良絵本」の研究を専門に行っている。「くずし字」を解説可能な若い研究者である。彼女がメンバーとして参加することで、この研究テーマに不可欠な「奈良絵本」外国人研究者が加わることとなる。さらに、彼女が研究する御伽草子の一つである「文正草子」研究は、室町から江戸期における出版文化や文化の受容研究にも関わり、本研究には欠かせない人物である。</p> <p>（具体的な成果）</p> <p>本年度三月に名古屋大学で実施した国際研究集会に参加、発表を行い、また、若手研究者を集めた交流会でもコメンテーターを務めた。さらに、ストラスブール大学における「古本」セミナー（3月27日～28日）や講演において、通訳などを務めた。</p>				
招へい元（機関名、部局名、国名）及び 日本側受入研究者（機関名）	招へい期間			合計
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
ストラスブール大学，日本語学科，フランス，伊藤信博（名古屋大学）	5 日	30 日	30 日	65 日

招へい者⑤の氏名・職名：Josef Kyburz・名誉教授

(当該研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)

Josef Kyburz 氏はコレージュ・ド・フランスにも所属した日本学研究の権威である。平成 29 年二月に申請者主催の国際会議「宗教空間・儀礼・記憶」にも参加し、「Some Arguments for the Two-Dimensionality of the Japanese Perception of Space」を発表している。西欧における日本学研究のあり方を、若手研究者に理解してもらうには適任の研究者である。日本在住も長く、日本語・英語、中国語にも長けている。若手研究者との研究交流、「くずし字」の読解会への参加など多方面での活躍を求めている。

(具体的な成果)

本年度三月に名古屋大学で実施した国際研究集会に参加、最終日の若手交流会ではコメントーターを務めた。また、名古屋大学若手研究者を聴衆に「カラダ：東西の比較論」セミナー（3月16日）も実施。

招へい元（機関名、部局名、国名） 及び 日本側受入研究者（機関名）	招へい期間			合計
	平成 29 年 度	平成 30 年 度	平成 31 年 度	
東アジア文化研究センター、フランス、伊藤信博（名古屋大学）	10 日	30 日	30 日	70 日

招へい者⑥の氏名・職名：Matthias Hayek・准教授

(当該研究者の国際共同研究における役割を含めた具体的な研究活動)

今回の海外研究者の中では、宗教思想に詳しい若手研究者である。また、東アジア文化研究センターの副所長でもあり、陰陽道研究の一人者である。名古屋大学文学研究科文化人類テキストセンター蔵本を調査にしばしば名古屋大学を訪問している。そうした、資料調査を含め、名古屋大学の若手研究者に対し、仏国における日本学研究に対しての講義や、漢文資料、儀礼資料など、日本での招聘期間中は、国内調査に随行、研究会での発表、若手研究者との交流、絵写本・絵入り本の注釈会などへの参加など、多彩に行動を期待する。

(具体的な成果)

本年度三月に名古屋大学で実施した国際研究集会に参加、最終日の若手交流会ではコメントーターを務めた。また、名古屋大学文学研究科文化人類テキストセンター蔵本に関して名古屋大学若手研究者に研究のアドバイスをを行った。

招へい元（機関名、部局名、国名） 及び 日本側受入研究者（機関名）	招へい期間			合計
	平成 29 年 度	平成 30 年 度	平成 31 年 度	
パリ・ディドロ大学、フランス、伊藤信博（名古屋大学）	5 日	0 日	10 日	15 日

※本年度の招へい者毎に作成すること。

7. 翌年度の補助事業の遂行に関する計画

※ 補助事業が完了せずに国の会計年度が終了した場合における実績報告書には、翌年度の補助事業の遂行に関する計画を附記すること。